

『エゴイズムでつくる本当の弟』

作 白鳥雄介

【登場人物】

- 林光朗（はやしみつお）
：青嶋家の三男として育つ。
青嶋家と血縁関係はない。
- 青嶋 悠介（あおしまゆうすけ）
：青嶋家の次男。
脚本家、演出家をしている。
- ユウスケ
：悠介の中に存在するもう一人の人格。
悠介の都合を汲んだ発言をする。
- 青嶋雪子（あおしませつこ）
：大介・悠介の母で、光朗の育ての母。
ドヤ顔でボケてくることがある。
- 青嶋大介（あおしまだいすけ）
：青嶋家・長男。
- 青嶋珠子（あおしまたまこ）
：悠介の嫁。
- 青嶋智恵（あおしまちえ）
：大介の嫁。すぐ実家に帰ろうとする。
- 林茂雄（はやししげお）
：光朗の実の父親。雪子の内縁の夫。
- 青嶋憲介（あおしまけんすけ）
：大介・悠介の実の父親。
雪子とは離婚している。
- 夢子（ゆめこ）
：青嶋家で飼われている白猫。
- タエコ
：光朗の実の母親。
- スーパーの店員／宮城県庁の職員／ニュースキャスター／レポーター浅倉

【あらすじ】

青嶋悠介は明日、結婚式を控えている。そこで血の繋がっていない弟・林光朗を「本当の弟」にするため、結びの挨拶をお願いしようとしている。孤独で苦しい人生を経験してきた弟に対し、悠介はどう接してよいのかわからず、深く関わるできなかった。

悠介と光朗を含む一家が経験してきた悲しき出来事を紐解きながら進んでいく物語は、悠介の思うように進んでいくはずだったが……。

【舞台説明】

舞台は半抽象的な空間で、主に青嶋家のリビングとして使用される。舞台の広さは4間（けん）四方。中心には2間×2間となるよう平台が並べられており、その床面は白く、上には白いダイニングテーブルと背もたれ付きの白い椅子が4脚置かれている。天井には白色の四角い行灯が吊るされ、その真ん中にシーリングライトがある。四角い行灯の底四辺には、LEDテープライトが仕込まれており、これが様々な空間を演出する。舞台の奥にはリビング空間とは切り離された3段の雛壇が置いてあり、この空間は主に家の2階にあるミツオの部屋のような役割を果たす。上手奥は玄関先へ続いており、下手奥はキッチンや洗面所へ続いている設定。上手前から舞台上へ出ていくことが可能だが、青嶋家のリビングには存在しないものとする。

シーン1

青嶋悠介がやってくる。襟付きの白シャツに、紺の長ズボンを着ている。

悠介

ではまず、僕の家族構成と簡単な我が家の歴史について皆さんにご説明します。僕の名前は青嶋悠介。父、青嶋憲介。

憲介、リビングに入ってきている。つけっぱなしのテレビを見つけて、イラッとしてため息。リモコンでそれを消してから座り、読書をする。

悠介

と母、雪子。

悠介

雪子はリビングから切り離された照明の中に入ってくる。の、間に生まれた次男坊です。

悠介

雪子が手招きして大介が入ってくるのに合わせ、4歳上に兄、大介がいます。僕は兄のことをダイちゃんと

呼んでいました。

悠介、青少年科学館で遊んでいる雪子と大介に合流。
一緒に遊ぶ動きをしながら家族についての説明を続ける。

悠介 まあくごくごく一般的な世帯収入の家庭だったと思います。週末はよく、札幌市にある青少年科学館に連れて行ってもらいました。家に帰る前に、レンタルビデオ屋さんで、

空間の一部をレンタルビデオ屋さんとして、

大介 「ドラえもん のび太の日本誕生」と「のび太と竜の騎士」と「遠い海から来たクー」だな。(とビデオを選ぶマイムをする)
悠介 映画を借り、夜はそれらを見ながら、

そして父が読書をするリビングの照明になる。
大介と悠介は平台に腰掛けて映画を見る。
雪子が机に置いていたチラシを持って、

雪子 したつけLサイズ何枚頼む？
悠介 母の大好きな宅配ピザを取って家族団欒。
雪子 何枚でもいいよ？500枚頼むか！？お！？(ドヤ顔をする)
悠介 そういった日常を過ごしていたのを断片的に覚えています。他の家よりちよつと変わっていたことがあるとすれば……。

憲介、テレビを消す。ゆっくりと大介と悠介の前にやってきて、
しゃがみ、首をグビッと出して、

憲介 お前ら、映画なんかよりもな……勉強しろ。
悠介 父・憲介はとてつもなく勉強を愛し、強制してくる男でした。父との記憶でよく覚えていたことがあります。

1992年、悠介の記憶。再び読書をしている憲介の近くに
大介がいて、

大介 (ボソッと) ……スーパーファミコン買って。

憲介 スーパーファミコン？なによそれ？

大介 ……あれは……は、箱？

憲介 箱？それ何入ってんだ！？

大介 なんか……その、すごいのが、入ってる。

憲介 ちゃんと説明してみれ。

雪子 大介には難しいべさ。

憲介 いいんだ、お前黙ってれ。説明できたら買っちゃる。

大介 ……は、箱で……すごい……情報！情報が入ってて！

もうありとあらゆることができるんだよ！クラスのヒーローにな

れるから……買って！

憲介 ……よし。買っちゃる。

大介 え、本当！？

雪子 あらよよかったね〜！

憲介 その代わり、勉強もするんだぞ？

大介 うん！やった！スーパーファミコン！

憲介、上手から捌けていく。大介は大はしゃぎ、母に頭を撫ぜられている。これらを俯瞰で見ている悠介。

悠介

これがうちの温かな家族の記憶。ちなみにこのお話における温かな家族のシーンは以上となります。

憲介、買ってきたものを持って戻ってくる。

憲介 はい、スーパーファミコン。

と笑顔で辞書を渡す。

大介 ……辞書だよこれ。

憲介 何言ってるんだ！辞書こそスーパーファミコンだべ！ありとあらゆる情報

が入った箱！この中、全部覚えたらクラスでヒーローだべや！

大介 いや〜……

憲介 いいか、勉強しろ〜

憲介は満足そうに座る。

悠介 これを発端に我が家はゲーム禁止、教育に厳しい家となるわけですが、価値観のズレから、両親は離婚。母・雪子、兄・大介、僕・悠介の元から、父、憲介は去って行ったのでした。

憲介、捌けていく。別袖から入れ替わりで林茂雄と光明、出てくる。

悠介 程なくして、母にできた新しい男・林茂雄とその息子、林光明との5人暮らしが始まりました。この5人暮らしの様子は後ほど詳しく。やがて、約30年後には……

ビデオテープがギョルギョルと回る音の中で素早く場面転換。茂雄、捌けていく。入れ替わりで大介の嫁・智恵と白猫の夢子がやってくる。夢子は白いワンピースを着た女性役者で、この時点では観客に猫とは伝わらない。下手端に大介と智恵がいて、中央のテーブルに雪子と光明、夢子がいる。悠介は上手端にいて、

悠介 こうなりました。大介は智恵と結婚し札幌市内で二人暮らし。僕は夢を追って東京に出ました。実家に残っているのはうちの母と、光明の二人。そして僕は明日……結婚します。

珠子が悠介の隣にやってきて、悠介の腕に絡む。

悠介 東京から一時的に戻り、地元、札幌で珠子さんと、両家の親族だけで小さな式を挙げます。これは……この物語は……

悠介、急に言い淀む。するともう一人の人格、ユウスケが奥の雛壇に入ってくる。悠介と同じ衣装を着ている。悠介の代わりに続きを言う。

ユウスケ この物語は俺とその弟が、本当の兄弟になるまでの、そしてこの小さな家族が再生していくまでのお話です。

暗転。

青嶋家のリビング。明転すると雪子がソワソワして机の周りを行ったり来たりして落ち着かない。結婚式の挨拶の練習をしている。

雪子 え〜と、ただいま〜ご紹介に預かりました、悠介の母、雪子です〜。

光朗、エサやりのために夢子と一緒にやってくる。

雪子 ミッツ！明日の準備した？

光朗 や、まだ。

雪子 スーツ一回着ときなよ〜。

光朗 うん。

夢子、急に走って捌けていく。光朗、追いかけていこうとするが、

雪子 は〜悠介、結婚だと！結びの挨拶なんてしたことないよ〜！（練習として）ただいま〜ご紹介に預かりました、悠介の母、雪子です〜。

光朗 あの、夢子にご飯やった？

雪子 ま〜だ。やっちゃって。

光朗 うん。ゆ〜め〜。

光朗、捌けていく。雪子、練習を続ける。

雪子 ダメ、立つところからじゃないとわかんないわ。え〜座ってて、呼ばれました〜。で、親族の皆さんに、はっはっは〜どうも〜って笑顔振ります〜。マイクの高さ調節します〜。ポンポンと叩いて、スイッチ入ってるかチェックします〜。お辞儀をするところで、マイクにガンっ！いてて〜〜でひと笑いふた笑い頂きます〜で、ただいま〜ご紹介に預かりました、悠介の母、雪子です〜。

チャイムが聞こえる。珠子がやってくる。

雪子 はあゝいゝ。
珠子 お邪魔しますゝ。
雪子 あゝゝ珠子さん！
珠子 こんにちは。今、悠介さんと明日のために買い物してきて、せっかくだから挨拶したいなゝと思つてすみません、急に。
雪子 や、なんもさ！今日ひよつとしたら二人で来るんでないかなゝつて思つてたんだゝ。
珠子 明日、よろしく願ひします。
雪子 こちらこそゝ！やゝゝゝ挨拶頑張るからねゝ！ただいまご紹介に預かりました、悠介の母、雪子です。つて、やっだつ！本人に聞かせてどうすんのさね！お！？（ドヤ顔）

雪子は大した面白くないことをドヤ顔で言うところがある。
反応に困る珠子。

珠子 あは……ああ！これ札幌駅で買つてきたなんかフランスの？
たまごボーロです。
雪子 何フランスのたまごボーロつて。

雪子、お土産袋を受け取つた時に珠子のスレンダーな容姿に
気づいて、

雪子 あら痩せたんでないゝ？スラゝつとしてゝ。（頭身を数え出し）1、
2、3、4、5、6、7、8……9、10、11、12、13、14
珠子 頭身はあるんでない！？お！？（ドヤ顔）
雪子 あ、いや、そこまではゝ！
珠子 14頭身なら「アバター」でしょやねゝ！
雪子 はい？
珠子 知らない？映画で「アバター」つて青い人型の。
雪子 ああゝ！
珠子 明日のドレス姿、これ綺麗なるわゝ。
雪子 いえいえゝ。お母さんもお綺麗になるんじゃないですかゝ？
珠子 やいやいやいやゝゝそう綺麗になるんだ、お！？（ドヤ顔）
雪子 ……あれお母さんおいくつでしたっけ？
雪子 （さらに嬉しくなつて）……………60！

珠子 ええ〜！60!?

雪子は還暦には見えない見た目と肌の綺麗さで、

雪子 そうなの！

珠子 え、ほんつとお若いですね！

雪子 ……ま、そこらへんの還暦より綺麗だとは思うわ。お!?(ドヤ顔)
何かしてるんですか?

雪子 や〜全然全然!なんもしてないのさ!化粧水と乳液、無添加使って、
小顔マッサージして、ミドリムシと水素水とプラセンタエキス
飲んで、アルガンオイルで料理してるだけで何もしてないのさ、
お!?(ドヤ顔)

珠子 おほ〜。

雪子 ほれ、アタシ、エステイションでしょ?見た目に説得力は必要でし
よや〜。60過ぎて肌綺麗なら全員美人なんだ、お!?(ドヤ顔)

悠介、帰宅してくる。

悠介 ただいま〜。

雪子 おかえり。

悠介 ミッツは?

雪子 ん?今、夢子のご飯準備してるわ。

悠介 あそう。ちよつとさ、ミッツと話したいことあって。

雪子 (悠介の話は聞いておらず、客席方向、窓の向こうを見て) やっだ、
車で来た?

悠介 うん、前に停めてる。

雪子 このあと大介夫婦が来ることになってんだけど。

悠介 え、なして?

雪子 明日の留袖をね、用意して持ってきてくれるんだと!

雪子 嬉しいから甘えちゃったわ〜。

悠介 そうなの〜?

雪子 すぐその月極駐車場なら止めてもバレないんでない?

悠介 ……いや、いいわ。ちよつといたとこのパーキング入れてくる。

悠介、捌ける。光朗がしれつと餌を入れた皿を持って

やってきている。珠子、光朗がいることに気づいて、

珠子 あ……（会釈）
雪子 あれ？ミッツと珠子さんはじめましてだっけ？
珠子 はい。珠子です。初めまして。
光朗 ……林光朗です。
雪子 悠介の弟。
光朗 ……。
珠子 あ、悠介さんが光朗さんに明日の式でお願いしたいことあるって。
光朗 あ、はい……缶詰なかったから、カリカリ（猫の餌、ドライフード
雪子 のこと）出したから。
あそ、ありがと。

光朗、餌の入った皿を床に置いて雛壇（2階）へ向かう。
照明が舞台奥の雛壇に絞られていく。
光朗、雛壇に寂しく座る。照明がリビングの照明に戻る。
雪子、たまごポロを盛った皿を持って入ってくる。
先ほど光朗が床に置いた猫のドライフードと
たまごポロの見た目がそっくりで見分けがつかない。
奥では雛壇に座り蹲る光朗がうつすらと見えている。

雪子 夢子の世話以外、2階の部屋籠って全然、出てこないんだ。ミッツが
青嶋家の中で一人になったのって、アタシが原因の一つだから。今、
ミッツがどう思ってるかなんて聞けないのさ。

夢子がどこからともなく来ていて、

雪子 ね〜ゆめ〜？聞けないよね〜夢子〜。
珠子 ああ、この子が夢子ちゃんですか？
雪子 そう〜
珠子 いくつなんですか？
雪子 12歳。
珠子 へえ〜〜かわいい〜！
雪子 かわいいたって人間でいったら60超えてるババアだよ。
珠子 ああそうなんです。静かにできるの〜（と夢子を褒める）。
雪子 昔っから人のこと全然怖がらない猫でね〜。この子の前に飼ってたの
もおんなじ夢子って名前つけてたの。

珠子 へえ〜じゃあ2代目夢子ちゃん。
雪子 そう、この子は前の子が死んじゃった次の日にミッツが拾って
きたのさ。
珠子 え〜すごいですね〜！
雪子 呼んだらすぐ来るんだよ、返事して。ほんと人間みたいな猫なのさ。
珠子 へえ〜、夢子ちゃん。夢子ちゃん。

夢子、特に反応なし。

雪子 返事して来るのさ。ゆめ〜！ゆめゆめゆめ、ゆめおいで〜。
ゆ〜め！ゆめおいで〜。

雪子、床にあったドライフードを手に持って呼び寄せる。
語気が段々強くなる。

雪子 ゆ〜め！ほれ！夢子おいで？！ゆ〜め！！ゆめおいで〜！！

夢子、光朗のいる雛壇へ去っていく。

雪子 明日楽しみだね〜。
珠子 そうですね〜。
雪子 いつもなら来るんだけどね〜。

と言いながら、雪子はたまごボーロと間違え、
ドライフードを食べてしまう。

雪子 あ、これ猫のご飯だ。(喉に詰まる)
珠子 ああ！ほんとですね！見た目が！(そっくり)
雪子 (気管に入ってしまった)
珠子 だ、大丈夫ですか？
雪子 ダイジョブ、ダイジョブ。(むせまくる)

とそこに、智恵と大介がくる。智恵は見た目も服装も
20代後半に見える。大介よりも歳下に見える。

智恵 お母さん、お邪魔しま……どうしたのお母さん！

ダイちゃん、お母さんが！
なに！？お母さん！？
水！水！

大介、キッチン方向へ走っていく。

智恵
珠子
智恵
珠子
智恵
珠子
智恵
珠子
大介
お母さん！

（動転したまま珠子に）どうしたの！？
たまごボーロ食べようとしたら
（よく聞き取れず）なに！？
違うんです！
え！？
たまごボーロと間違えて
お母さん！

大介が持ってきた水を飲む雪子。

珠子
智恵
珠子
智恵
珠子
智恵

猫の餌を！！
え？！猫の餌！？
間違えて食べちゃって！
てかあんた誰！？

一同、静止。雪子、水を飲んでから、

雪子
智恵
雪子
珠子
雪子
智恵
雪子
珠子
大介
珠子
大介
智恵

珠子さんだって。
……珠子さん？
悠介の奥さん。
あ、珠子です、あの、すみません、お土産のたまごボーロと
間違って、猫の餌、口に入れたら咽せちゃって。
そ、間違っただけだから。
（手叩いて笑って仕切り直すように）やだも、びっくりさせないで
よ。珠子さん！
お騒がせしました。
いや、こちらこそすみません。
いえ。
あ、どうも、悠介の兄の大介です
妻の智恵です。

智恵 あゝびっくりした！喉詰まらせたか、毒殺されかけてるかワ〜って考えた。

大介 (智恵に) 俺、その声聞いてびっくりしたしよや〜。
珠子 すいません。

大介 いえいえ、こつちが突っ走っちゃいましたね、すいませんでした。

間。智恵の顔色が変わる。

智恵 え、何、早く対処したじゃん。

大介 うん、そうだけどさ。

智恵 お母さん、殺されかけてたかもしれないじゃん。

大介 いや、そこまでかは〜

智恵 あ、そつかそつか、私が悪いのか〜。

大介 チーちゃん？

雪子も心配になってくる。

智恵 ……帰りたいなあ。

大介 え？

智恵、部屋の端に稲川淳二の「怖いなあ〜怖いなあ〜」のように「帰りたいなあ〜帰りたいなあ〜」を連呼しながら移動。大介、雪子、「チーちゃん」と呼びかける。

智恵 ……実家、帰りたいなあ〜。

雪子 チーちゃん、心配してくれて嬉しかったから。そんなこと言うんでない？

智恵 帰りたいなあ〜帰りたいなあ〜。

大介 うん、ごめんだから、明日、悠介の結婚式だしさ。

智恵 あ〜〜〜もう！実家に帰らせていただきます！

大介 ちよちよちよちよ！

智恵、泣いて家から出ていく。急いで追っていく大介。
袖奥でなんとか呼び止め二人の会話が続く。

智恵「どうせ私が悪いんでしょ？」

大介「誰もそんなこと言っていないでしょや！」

智恵「言ってなくてもそう感じるも！」

大介「考えすぎだって！」

智恵「じゃあさ！ダイちゃんは私のことどう思ってるの？」

大介「……好きだよ」

智恵「ホントに!？」

大介「ホントだよ、好きじゃないと一緒にいないでしょ！」

智恵「私の味方？」

大介「味方だよ！」

智恵「ずっと一緒にいてくれる？」

大介「だから結婚してんでしょ?!」

智恵「……好き!？」

大介「好きだよ」

智恵「足りない」

大介「好きだよ！」

智恵「足りない！」

大介「好きだよ!!」

智恵「全然足りない!!」

大介「大好きだよ!!むううう」

二人の会話が急に止まり、チュパチュパとした音が聞こえてキスした模様。舞台上で会話を聞いていた雪子と珠子、目を合わせる。雪子、「うちの息子がすみません」的に意味でなんとなく頭を下げる。智恵と大介が戻ってきて、

……。

大介 (艶っぽく) ごめんね、なんか。

珠子 あ、いえ……

雪子 ちよつとうがいしてくるわ、あ、お茶入れちゃっか？

智恵 飲みた〜い!

雪子 大介はなに飲むの？

大介 ああ〜自分でやるわ。

雪子、キッチン方向へ捌けていく。

珠子 すみません、さっき紛らわしいことしちゃって。

智恵 ううん、なんもお母さん、明日の結婚式楽しみにしてたんだよ。
大介 結びの挨拶、すごい練習してるんですよ。

智恵 (急にラブラブモードで) ダイちゃんそれ言わなくていいでちよ!

大介 ああ、そっか♡

珠子 ああ、それなんですけど。

智恵 え?

珠子 結びの挨拶、光朗くんにやらせたいって。

智恵 なんです?

珠子 その、家族として、ちゃんと青嶋家の人として挨拶させて。

智恵 弟になってもらいたいって。

珠子 いい。いいね、それ!

智恵 あ、これ悠介くんからお母さんに直接伝えるんでお母さんには(口元
でバツを作る)

大介 はい。

智恵 オツケオツケ、黙っとく黙っとく。

珠子 ありがとうございます。

大介 あ、そうだ!うちの母親、なんか変なことやってきたでしょ?

珠子 え?ああ。

大介 昔からそうなんですけど、なんかボケてくるんですよ。テキストに流
してくださいね。

智恵 それは流石にできないよね!?突っ込んでいこうね。

雪子 大介!

雪子、袖から顔を出して、

雪子 なに飲む!?あんただけ醤油飲むか、お!? (ドヤ顔)

智恵 (同時に) 喉おかしくするわ!

珠子 (同時に) 塩分過多か!

智恵・珠子 ああ、(ツッコミが被っちゃってワタワタする)

大介 二人とも無理しないで。座ってていいから。

大介、キッチン方向へ捌けていく。

智恵 優しいんだよ、ダイちゃん。

珠子 そうですね!

智恵 珠子さん兄弟は?

珠子 私、一人っ子です。智恵さんは？

智恵 ……私も一人っ子。

珠子 あ、そうなんですネ。一緒に遊べるとか、頼れるって。羨ましいですよね。

智恵 うーん、そうだね。

いつの間にか舞台からいなくなっていた夢子が
またしれつという。

智恵 あ、夢子ちゃん！や、ほんと可愛い！ダイちゃん猫ほしー！
珠子 へえー猫好きなんですか？

智恵は、猫よりも兄弟よりも、実は子どもがほしいので、

智恵 ……珠子ちゃん、妊活してるの？

珠子 え？

智恵 赤ちゃん。

珠子 そうですね〜できたらいいなあ〜って思って、一応、
今頑張ってます。

智恵 へえ〜いいねえ〜。夢子ちゃん。(口でチツチツチ)

夢子、反応なし。語気が強くなっていく。

智恵 おいでおいで〜。ゆ〜め〜こ〜ちゃん！おいで〜……
夢子！夢子おいで！

夢子、また雛壇へ去っていく。

智恵 明日楽しみだね〜！

珠子 そうですね〜。

智恵、机の上のドライフードを食べてしまう。

珠子 あっ！そっちは！

智恵 うわっ！……おいしい、このたまごボーロ！いい塩加減〜。

珠子 そ、そうですか〜……。

智恵 あ、ね〜！珠子ちゃんのことは何て呼んだらいい？
珠子 え？ああ〜タマちゃんとか。
智恵 タマちゃんいいね！じゃあさ、うちらはうちらで姉妹ってことで仲良
くしようね〜！

智恵、ドライブフードをさらに食べる。

珠子 ええ〜嬉しいです〜！（珠子、ドライブフードのことを指摘できない）
じゃあ智恵さんのことは？
智恵 え〜なんだろ？『お姉さん』とか？
珠子 お姉さんかあ〜。確かにお義姉さんだけど歳下なわけだから、
もうちよつと近い呼び方がいいなあ〜。

智恵 ん？
珠子 ……ん？
智恵 ん？いくつ？
珠子 私は39ですけど？
智恵 48。
珠子 48……48？！

この辺りまでに大介が飲み物を持って出てきて、

大介 ああその話〜？見えないでしょ〜。
珠子 え？！すみません、お兄さんは？！
大介 35です。
珠子 （大介は見た目通りの年齢だったので）ああ〜。（二人を見比べて）
ええ〜！！
智恵 だから、お姉さんって呼んで。

雪子も戻ってきて、

雪子 や〜〜口の中気持ち悪かったから、歯も磨いたわ！けど、食べちゃ
うたまごボーローロー！お！？（ドヤ顔）

雪子、ウキウキで今度は本物のたまごボーロを食べる。

智恵 あ、ちよつ！お母さんそれ！

雪子 あらゝあまゝい！これがフランスのたまごボーロ？
やゝさつき初めてこっちの猫のご飯食べちゃったけど、
こんなへんなもん食べてんだね！

夢子が入ってきて、ドライフードを智恵の目の前で一口食べて
持って、いなくなる。智恵、自分が食べてた方が猫の餌だと
気付くが、言葉にならない。珠子がその様子を察して、
「指摘できずにすみません！」と言わんばかりにお茶を
差し出す。智恵、無言でお茶を口に含む。

智恵 ……。

雪子 そうだ！チーちゃん！明日の着るものでしょ！

智恵 そ、そうだね！結婚式で着るやつ！それ渡さないでどうするの！
忘れるところだったゝゝゝ！

珠子 あ、そうですよゝゝそれぞれ！

雪子 ありがとねゝ。

智恵 ダイちゃんと二人で選んだんだ。どれ似合うかなゝって。

雪子 やゝゝ本当嬉しいよ。

智恵 選んでよかったねゝド・レ・ス♪

雪子 うゝん！留袖着られるなんて嬉しいわゝ……

智恵・雪子 ん？

雪子 明日、留袖着れるんでしょ？

智恵 ……ドレス、借りちゃったよ？

雪子 ……あらまゝ。

一同 ……。

智恵 帰りたいなあゝ。

「大丈夫、大丈夫」とみんなでなだめる。

智恵 留袖借りてないもん！ダイちゃん聞いてた？！

大介 いやゝ

雪子 私が留袖着たいってちゃんと伝えればよかったねゝ

智恵 いいや、私が常識のないクソ女だから！ほんと、クソのような！

まるで！クソと見間違うような！汚物！吐瀉物（としゃぶつ）！

雪子 そこまで言っていないしょや！

智恵 結びの挨拶する親が留袖じゃないっておかしいもん！あれ？でも

雪子 明日お母さん挨拶なしになったから、ドレスじゃダメ！？
ん？……挨拶なしになったってなに？

珠子 あ！

智恵 ……あ！

珠子 ああ、いや大丈夫です、あの、明日の結婚式、結びの挨拶を
光朗さんにやらせたいって悠介さんが。

雪子 聞いてないね……。

智恵 ……もうやっちゃったじゃん！！

大介 大丈夫だって。

智恵 ユウちゃんから直接お母さんに伝えるはずだったのに、

私言っちゃったじゃん！

珠子 あ、もう全部言う！

智恵 もう帰る！

大介 落ち着きなって！

智恵 なんで落ち着いてって言うの！？

雪子 もうわかったって、気持ちは嬉しかったから。

智恵、出ていってしまう。大介、追おうとして、

大介 ちよと今日このまま帰るわ。

雪子 落ち着けば大丈夫なんでしょ？

大介 うん、なんか張り切ってたからだと思う。

珠子 あの、留袖はホテルで借りられると思うので。

大介 ああそうですよね！

珠子 私、連絡しておきますから。

大介 お願いします。

大介、出て行こうとすると、ちょうど悠介が帰ってきて、
二人、ぶつかりそうになって

大介 おお……

悠介 おお……

大介 ……。

悠介 ……明日、よろしく……

大介 ……おお、うん。

外から車のエンジンがかかる音が聞こえて、

大介 ああ、ちよつとチーちゃん！

大介、捌けていく。

雪子 おかえり。

悠介 智恵、なんかあったの？

雪子 なんもだ。車置いてきた？

悠介 うん。あのさ、ミッツどこにいるの？

雪子 2階。

悠介 そう。ちよつと荷物置いてくる。

悠介、捌けていく。雪子、たまごボーロと餌、水などを片付けていきながら、

雪子 チーちゃん、何かあればすぐ実家帰ってるみたいなんだけど。アタシ

はね、チーちゃんのことすごく好きなの。頑張り屋さんなのさ。大介
想いでさ。私やミッツのこともすごい大切にしてくれるのさ。

珠子 ……ええ。すみません、挨拶、せつかく準備して頂いてたのに。

雪子 ん？いいなんもだ。悠介と珠子さんのしたいようにすれば。

私はもう親として、なんもしてやれないから。まあ雪子は、

セツないですけど！？お！？（ドヤ顔）

珠子 あはは。留袖の電話しておきます。

雪子 お願いします。

雪子、キッチン方向に捌ける。珠子も手伝いながら捌ける。

照明、雛壇だけになる。光朗、うづくまっている。

隣には夢子が寄り添うように座っていて、

悠介 （袖声で）ミッツ？

光朗 なに？

悠介 （袖声で）今、いい？

光朗 うん。

空間に入ってきたのは、悠介ではなく、ユウスケ。

ユウスケ 明日の結婚式なんだけどさ。

光朗 うん。

ユウスケ ミッツの席、真ん中にしたから。

光朗 なして？

ユウスケ や〜〜〜珠子さんの親族にもちゃんと紹介したいから？

端っこの席にしたら、しゃべんないべ？

光朗 はい。

ユウスケ でき、結びの挨拶、ミッツやってくんない？

光朗 お母さんやるんじゃないの？

ユウスケ の予定だったんだけど、ミッツやってくんない？

光朗 ……。

ユウスケ ほれ、いいネクタイ貸しちゃっからさ。ミッツも青嶋家の代表

として挨拶すれば立派な家族でしょや。俺の弟としてさ。

光朗 ……。

夢子がネクタイをイタズラで持っていなくなる。

ユウスケ あ、ちよ、ゆ〜め！

ユウスケ、夢子を追って捌ける。

光朗 ……。

戻ってきたのはユウスケではなく、悠介で

悠介 いいしょ？これ（ネクタイ）……似合いそうじゃん……た、頼むね。

悠介、捌けていく。夢子がまたやってきて光朗の頭を撫でる。

光朗 ……。

照明はリビングに戻ると珠子がやってくる。

悠介、玄関方向からリビングへやってきて、

珠子 言えた？

悠介 ……うん、言えた言えた！
珠子 よかったね。

悠介 これでさ、ミッツもちゃんとした家族になれるでしょ。ミッツにとっても良い日になるでしょ！ず〜と、辛い思いしてきたわけだから……。

場面転換。回想シーンとなる。

シーン2 1994

青嶋家リビング。茂雄と光朗が立っている。

大介、悠介、雪子が相對しており、

茂雄 で、この子が光朗です、今日からよろしくね。

(会釈)

悠介 ……ねえ、お父さんは!?

大介 悠介。

悠介 この人たち……誰なの？

雪子 (紹介するように) シゲちゃん、お母さんの新しい……

悠介 ……わかんないよ。

大介 悠介(と呼びかけて理解を促す)

悠介、逃げるように部屋の端で蹲る。

大介 悠介!

雪子 ユウちゃん! (茂雄に) ごめんね、なんともないから。

雪子、悠介のそばにいき、

雪子 ユウちゃん、お願い。

悠介 お父さんは？

雪子 離婚したの。

悠介 離婚ってなに？

雪子 お父さんとお母さん、もう一緒にいない方がいいってなったの。

悠介 俺は一緒にいた方がいいと思う。

大介 悠介！
悠介 ダイちゃんはいいの？
大介 あのまま勉強だけの一生よりはマシだべ。
悠介 このままお父さんいないのも嫌でしょや。
大介 お前……わかれよ……。

悠介、捌ける。雪子、追いかけて袖に向かって話しかける。

雪子 ユウちゃん、お母さんのこと困らせないで。

と雪子が舞台上へ連れ戻すと、悠介の代わりに
ユウスケがやってきて、大介の横にくる。

雪子 いいかい？今日からはシゲちゃんとミッツと一緒に暮らすんだよ。
でもね、結婚はしないの。

大介・ユウスケ (愛想笑い、なるほどね、いいんじゃないなどと言う)

雪子 内縁の夫って言うんだよ。

大介・ユウスケ (愛想笑い 内縁の夫かあ。など)

雪子 ミッツはシゲちゃんとシゲちゃんの前の奥さんの子ども。

連れ子って言うんだよ。

大介・ユウスケ (愛想笑い 連れ子って言うんだよなどと言う)

雪子 あんたたちも連れ子だね。

大介・ユウスケ (愛想笑い あ、俺たちもかゝりやまいったなどと言う)

雪子 ダイちゃんとユウちゃんの気持ちもあると思うけど、笑ったときな。

その方が楽だから。

悠介が上手前からやってくる。照明変わって、悠介とユウスケ
の脳内の会話のようになる。

悠介 なに？

ユウスケ 折り合いつけてやっていこうよ。

悠介 は？

ユウスケ は？じゃなくて。お前が呼んだんだろ？

悠介 ……お、おお。

照明変化して次のシーン(スーパのお惣菜コーナー)に

変わっていく。

茂雄 よし！家族みんなでご飯買いに行くか！

シーン3 1998

ティロリロロンとスーパーの入店音が鳴る。
スーパーの店員がテーブルにお惣菜のバックを並べていく。

店員 いらっしやいませ！ただいまのお時間、各種お値引きして

おります。いかがでしょうか？

雪子 ユウちゃん、ミッツのこと面倒見ちゃって。

ユウスケ うん。

茂雄 ほら、シール貼ってあるの取れよ！

雪子 食べたいもの取りなさい。

茂雄 シール貼ってある食べたいものとれよ！

大介はサツとお惣菜を選び、端でお会計を終えて帰るのを待つ。

光朗 ユウちゃんアレとって？

茂雄、光朗が選んだお惣菜を取ろうとするユウスケを制して、

茂雄 おい、ちょっと待って！

半額のシールが貼られるのを待つ茂雄。店員がシールを貼ると

茂雄 よし、取れ！（ユウスケに）ちゃんと見てれ！あやうく定価で買うところだったべや！（店員に）あ、すみません！

別なお惣菜に半額シールが貼られていないのを見つけて、

店員 はい？

茂雄 これ貼られてないんですけど……

店員 そちらはまだ……。

茂雄 え〜！もう8時過ぎてるよ！ね？ね？ね？！

店員 はい〜……（シールを貼る）

茂雄 ほっほーい！よっし、セツちゃん、お会計！みんな選んだもんだせよ〜。

店員 こちら半額が一点、こちらの半額が一点、こちら半額、半額、半額、半額……お会計が、

店員、椅子を組み合わせてレジ台として会計作業をしていく。
想定よりも上がっていく金額を見て焦り出す茂雄。

茂雄 あ、すいません、じゃあこれとこれとこれ、やっぱなしで。でも

箸とスプーンはあるだけください！

悠介 ねえ、これでいいの！？

照明変化して、悠介とユウスケの脳内会話のようになる。

ユウスケ いいんだよさっさとお惣菜買って帰るべ。

悠介 夜の8時とか9時にお惣菜コーナーうろちよろしてさ〜！

これを団欒の時間だとしているのが恥ずかしいべ！

ユウスケ だから代わりに俺がやってやってんだべ。

雪子、ポーツと立っているユウスケを見つけて、

雪子 ユウちゃん、なしたの？そんなポーツとしてたら、ほんとに棒に

なるんだよ、お！？（ドヤ顔）

ユウスケ ……なんでもない。

雪子とユウスケ、捌けていく。悠介だけが舞台に残っているが
やがて捌けていき、場面転換。

シーン4 2000

光朗がダンボールで作った将棋セットを持ってリビングに入ってくる。横には夢子がいる。

茂雄が入ってきて、光朗を見つけて、

茂雄 お？将棋か？

光朗 そう、ダンボールで作った。ねえ、将棋盤と駒買って。

茂雄 ……（そんなお金はないので）なく（とあやふやにする）

悠介が入ってきて、水回りへ行こうとするのを
光朗が止めて、

光朗 ユウちゃん、将棋したい。

悠介 ……おお、やろうか。

二人、床で将棋を始めようとする、茂雄が光朗の横にきて、

茂雄 ……ここ指せ……。

と横槍を入れてくる。とそこに大介が帰ってくる。
封筒を持っている。

大介 シゲちゃん？

茂雄の前に封筒と中の書類を見せる。

茂雄 ん？

大介 シゲちゃんてさ、なんの仕事してるの？

茂雄、書類（督促状の紙）を確認し、机に置く。

茂雄 言ってもわかんないべや（将棋を見て）ここに指せ。

大介 わかんなくてもいいから教えて。

茂雄 （将棋を見て）で、ここ指せ。

悠介 （茂雄に）ねえ、ダイちゃんとしやべるならミッツと二人で
やるけど。

茂雄 うるせえ、ハンデだべ。

大介 教えて。

茂雄 ……水売ってんの。ミネラルウォーター。

大介　なんで水売ってんの？
茂雄　言ってもわからないって言ってるべや。
大介　ねえ、なんで水なんか売ってんの?! って。

茂雄、お互い喧嘩腰になってきて、

茂雄　あいな！インターネットで売れんだよ！生命の泉（いずみ）と書いて、『生命泉（せいめいせん）』だ！

大介　売れてないからこんな紙が届くんじゃないの!?

茂雄　岐阜県の水なの! 北海道じゃ飲めないから売れるんだよ!

大介　札幌は水道水がおいしいから、ミネラルウォーターなんて

買わなくてもいいって理科の先生言ってたけど!

大介　わかってねえくせにつつかかかってくんな! 全然味が違うんだよ!

茂雄　……全然違う?

大介　全然違うよ! ……け、健康にもいいんだぞ!

大介、一度捌けてキッチンからコップに入った水を
2つ出して机に置く。

大介　じゃ、どっちが生命泉?

茂雄　……俺を試そうってか。

茂雄、出されたコップの水を両方、試飲する。口の中で空気を
含ませるなどワインソムリエのようなことをして確かめるが、
全く味の違いがわからない様子。今度は小指を水につけて
デミグラスソースみたいに味見するが、わからない。

大介　わかってないべや……。

茂雄　（飲み比べて）こ、こっちだ!

大介　……ハズレ。

茂雄　……。

大介　なんで勝手に卓球部の道具全部売っちゃったんだよ!

どんだけ金ねえんだよ!

大介、茂雄に詰め寄る。後退りした茂雄が将棋盤を蹴っけしま
い、駒がバラバラと床に散らばる。

光朗　ダイちゃん、やめて。
大介　なんだよこれ！（書類をもう一回取って投げつける）
光朗　……家族で喧嘩しないで。
大介　……家族でって。
光朗　ユウちゃんもなんか言つてよ。
悠介　……。
茂雄　……お、お前ら食わせんのに、こっちがどんだけ働いてると
思つてんだよ……
大介　お前マジでふざけんなよ。ラケットと練習着と靴売ったって
なんもなんねえべや！
茂雄　いや意外に高くてな。
大介　お前！
光朗　お父さんもダイちゃんもやめてよ。ね、ユウちゃん！
悠介　……。
大介　……なんで俺が我慢しなきゃいけないんだよ。
茂雄　……。

雪子、帰ってきて、

雪子　ただいま遅くなっちゃった。渋滞でバス、全然進まなくてさ。
明日から空飛ぶ絨毯でサロンいくわ。お！？（ドヤ顔）
茂雄　卓球なんて将来、役に立たねえんだから、勉強しろっつもの！
大介　いい加減にしろよ！
雪子　ダイちゃん、目上の人にそんな口きくんでない！
大介　ゲームは買ってくれない！卓球の道具売る！じゃ勉強するから
塾行かせてくれよ！参考書買ってくれよ！
雪子　買うしたらあ！そんな言葉遣いする子に育てた覚えはないよ！
大介　……父親気取んなよ。
茂雄　……。

茂雄、部屋を出て行こうとする。

雪子　どこいくの？
茂雄　ミネラルウォーター、売ってくんだよ。インターネットはな、夜でも
売れんだよ！

光朗 ねえ、ご飯買いに行こ。
茂雄 ?
光朗 お父さん。
茂雄 ……。

茂雄、出ていく。

雪子 お父さん、忙しいと。
光朗 ……。

長い間。雪子、落ちてる書類を見つけて、

雪子 頑張りどきだね……がんばれ……っていう応援の手紙が来ました。
光朗 お!?!……将棋セットも、買っちゃっからね。
……いないよ。

光朗、駒を拾い集めてから、雛壇へ行く。夢子、追っていく。
光朗、雛壇で蹲る。悠介は棒立ちでいる。

悠介 ……。

悠介が何も言えず困っているとユウスケがくる。
立っていた場所に行き、悠介の代わりに立つ。
二人の脳内の会話が始まる。

ユウスケ いいよ、立ってて欲しいんだろ?

悠介 ……こういうとき、
ユウスケ こういうときどうしたらいいかわかんないんだべ? シゲちゃんのこ
とは父親だと思いたくない。ミッツの顔見てもなんて言っちゃった
らしいかわかんない。お母さんのことは、困らせたくない。
悠介 ……。

ユウスケ ……立つといてやるよ。

場面転換。悠介と大介を残し、全員、捌ける。

シーン5 2000

遊技場。天井行灯のLEDテープがカラフルに点灯。
悠介と大介が待っていると憲介がくる。

憲介 おお！久々だなあ〜！勉強頑張ってるか！？

大介 うん、久々。まあまあ。

憲介 まあまあ？それじゃダメだべ！お母さん元気か？

大介 うん、元気だよ。

悠介 今日なにこれ？

憲介 ああ、大介は来年、高校受験、悠介は中学生なるべ。

悠介 そろそろ俺が本格的に勉強教えちゃつから！

悠介 ……どういうこと？

憲介 これから毎週日曜日は俺の家で朝から晩まで勉強！国立大行かせちゃつかな〜！ただな！久々だし、今日くらい遊んじゃるつちゅーわけだ。ちよと待ってれよ！

憲介、受付をしに捌けて行く。

悠介 ……ダイちゃん、お母さんからなんか聞いてたの？

大介 お母さんがお父さんに頼んでくれたんだ。……これで勉強できるんだから、悠介にとつてもいいべや。

悠介 ……ダメでしょ。

大介 何が？

悠介 いや、6年ぶりに会ったと思つたら、これはないべや！

大介 なしてよ。家いても我慢ばつかだべ。これから受験して良い高校と大
学入ってさあ〜。お父さんの言うことちよつとはわかってきたわ。勉
強大事だ。

悠介 お父さんがお父さんじゃなくなっちゃうからダメだつて！

大介 ……は？

悠介 俺たちのこと捨てた人だけどまだお父さんだべや！それが毎週日曜に
ただ勉強教えてくれる人になっちゃつたらそれはもうお父さんじゃな
い！

大介 ん？なしたのよ。勉強教えてくれるんだつたらいいべや。

悠介 よくない！

大介 ……なにこねてんのよ。

悠介 だから！毎週日曜日に勉強教えてくれる「だけ」の人は、そんなのは

お父さんじゃない！

大介 ちよ、お前の言ってることわかんない。

悠介 お父さんは……家にいて、なんか一緒にご飯食べたり、遊んで、
そういうのして。

大介 じゃあ、シゲちゃんお父さんか！？

悠介 ……それは違う。

大介 ならマジで何に引っ掛かってんのかわかんない。

悠介 お父さんがお父さんじゃなくなる！

大介 ……いい、お前わかんない。

悠介 ダイちゃん？

大介 ……。

悠介、受け入れられず、その場から捌ける。

大介が連れ戻しにいく。手を引かれてきたのはユウスケ。

大介 お前空気読めよ。

ユウスケ おお。

大介 お前がどう思ってるとか知らないけど、俺がどう思おうと勝手だ
べ。不機嫌でいるのは自己中だからな。

ユウスケ ごめん。

大介 な、空気読めよ。勉強できるんだから、それでいいべや。

ユウスケ おお。

憲介が戻ってきて、卓球ラケットを持っている。

憲介 よし今日は卓球するぞ！

大介 え、卓球？！

ユウスケ ちよちよちよ！（と憲介を連れて大介から距離を取る）

憲介 なしたのよ？

ユウスケ ……空気読んでよ。

憲介 なに？ほれ！やるぞ、卓球！

ユウスケ なんてよりによって卓球なの！？

ユウスケに促されて、憲介はしおれている大介を
見る。

ユウスケ
（ため息）……うちお金なくて、ダイちゃん、卓球部の道具全部
売られちゃったんだよ！

憲介、動揺するが、

憲介 よし！卓球、やるぞ！2対1でこい！ほれ、大介、サーブ！

ユウスケ 空気読んでよ。

大介 ……（作り笑顔で始める）

以後、卓球をしながらのセリフ。憲介、サーブは全て空振り。
大介がサーブをすると、憲介は全部空振り。

憲介
なあ〜大介！勉強できるといいことしかないぞ！？一緒に住んでた
頃はな、厳しくしたかもしれないけど、全部お前たちのためだった
んだぞ！勉強できれば、全部うまくいくんだから！お父さんはな、
東京の私立（わたくしりつ）全部受かってんだから。早稲田も、慶
應も、上智も、中央も。で、早稲田行って〜いっぱい勉強したか
ら！今こうやって学習塾自分で開いて、生活できるようになったん
だよ。だから受験がんばるべ〜！

憲介、ここまでピンポン玉に触れてすらいない。

憲介
……わかった！毎週日曜日うちで勉強、それ以外の日は
うちの塾で勉強すれ！不得意な科目は個別で家庭教師もつけてや
る！欲しい参考書、全部買っちゃつから！受験勉強のための費用、
俺が全部出してやる。

大介 え、ホント？

憲介 いいぞ！よし、こんなところで卓球してる場合じゃないな！ほら
本屋行くぞ本屋！

憲介、大介、ユウスケは捌けていく。
入れ替わりで光朗と夢子がくる。
青嶋家のリビングになっていく。

光朗が誰もいないリビングで佇んでいる。

雪子
ただいま。ミッツ、一人だったしよ。シゲちゃんも一緒に帰ってきたから、スーパー行こ。

光朗
ダイちゃんとユウちゃんは毎週どこに行ってるの？

雪子
……ダイちゃんはもうすぐ大学受験だから。

茂雄、そつと来て静かに話を聞いている。

光朗
ねえ。

雪子
ん？

光朗
……俺のお母さんなして死んじゃったの？

雪子
……ミッツを産んで……。

光朗
……。

雪子
ミッツのせいでないよ？

光朗
……。

茂雄
セツちゃんが、ミッツのお母さんだよ！

光朗のそばにいた夢子、そつと頷く。

茂雄
ひ、一人よりも二人いたほうがお得だべ。

光朗
じゃお父さんは誰のお父さん？

茂雄
さ、3人の父親だよ！

光朗
したらなんで結婚してみんな苗字「林」にならないの？

雪子
ダイちゃんとユウちゃん、学校通ってて苗字変わるの可哀想だからさ。

光朗
俺の家族は誰？

雪子
……。

光朗
ダイちゃんとユウちゃんはなして毎週毎週、実のお父さんに会いに行くの？

茂雄
……。

大介、悠介、帰ってくる。

大介
ただいま。

雪子 おかえり。
大介 (判定表を見せて) 北大工学部の判定B！千葉大学と金沢大学の判定も良かったよ。

間。大介は空気に違和感を感じる。

大介 ……なに？
雪子 ん？大事な話だ。
光朗 ダイちゃん、ユウちゃんのお父さんて誰？
大介 どういうこと？
光朗 ダイちゃん、ユウちゃんのお父さんて誰？
悠介 ちよつと手洗ってくる。

悠介、キッチン方向へ足早に捌ける。

大介 俺のお父さんは青嶋憲介って学習塾経営してる人だよ。ミッツのお父さんはシゲちゃんだべ。
雪子 そうじゃなくてさ。
大介 じゃなに？
雪子 ……。
大介 俺は別に、今はもう不満とかなないよ。お母さんとシゲちゃんが付き合っ
って、一緒に住んでもいいよ。ミッツのこと困ったら助けるし、
勉強くらいなら教えてあげられるよ。でも俺はお父さんに勉強教えて
もらうし、お父さんの力を借りて受験もするし、それが悪いことだと
は一切思わない。

悠介ではなく、ユウスケが返ってくる。

大介 ミッツ、なんか聞きたいことある？
光朗 ユウちゃんは、どう思ってるの？
ユウスケ ん、よくわかんない。大介は好きにすればいいんでない？
大介 おお、好きにするわ。
雪子 ミッツがどう思うかでいいよ。
光朗 ……。
雪子 でも私の子どもは、大介と悠介と、ミッツだよ。

光朗、足早に雛壇（2階）へいく。

茂雄 ミッツ！なんか言うことあるべや！

光朗 わかんない！

茂雄 何がわかんないのかちやんと言えつての！

ユウスケ いやシゲちゃんが怒鳴ることじゃなくない？

茂雄 お前に何がわかんなのよ！親だから怒鳴るの当然だ！

ユウスケ 待ってお前つてなに？

茂雄 うるせえな！

雪子 ミッツはそういう時期なんだべさ。

大介 ちよ、今なしてシゲちゃんが不機嫌なの？

茂雄 なしてもだ！

大介 ややこしくしてんの誰だよ！

雪子 いいやめれや！おっきい声出すんでないって！冷静になんな！

大介 大声選手権か！80デシベルです。お！？

茂雄 ……ち、地下鉄の車内かつ。

大介 面白くない。何、地下鉄の車内つて。地下鉄の車内つてなによ！

茂雄 あんま掘り下げんなや！

雪子 頼むからシゲちゃんもダイちゃんも大きい声出さないで！胸あつつ

くてドキドキしてくるから。

悠介、舞台端に立っていたユウスケの手を引いて

袖へ追いやり、入れ替わって出てきて、

悠介 じゃ説明してよ。今、誰と誰が家族なのか。

大介 お前マジで空気読めよ！ややこしくするなや。

悠介 してないしよや！はつきりさせた方がいいべ！ミッツにも聞こえる

ように言えよ！

雪子 やめれつて！

悠介 お母さんだつてなして人ごとみたいなものの言い方してるの！？

雪子 私はそんな風に言っただつてもりないよ。

悠介 お母さんが離婚してなきやさ！

間。

雪子 ……それを言ったらお終いだべさ。

ユウスケ、再び舞台上に出てくる。
悠介とユウスケの脳内会話。

ユウスケ お前、出てこない方が楽だよ。

悠介 ……なして。

ユウスケ 黙ったり、受け流したり、嘘ついたり、楽すること、もう良い加減
馴染ませろよ。

雪子 悠介……笑ってた方が楽だよ。

悠介とユウスケを残して捌けていく。場面転換。

シーン7

悠介とユウスケの脳内の会話。

悠介 この人が紛れも無い母親で、この人が紛れも無い父親で、俺らが紛
れも無い兄弟で〜とか言えたら楽なんだけど。

ユウスケ 形は大事だからな〜。

悠介 ダイちゃん、あれから大学2浪もしたじゃん。

ユウスケ うん。でも秋田大学受かったべ。

悠介 運悪いよなあ、現役のときインフルエンザで、1浪目は爆弾低気圧
で飛行機飛ばない。でやっと受かって秋田大学。

ユウスケ まあ大変だっただろうなあ。

悠介 でもある意味で当然だったな。

ユウスケ なに？

悠介 ダイちゃん、コツコツ貯めた小銭で隠れてゲーム買ったからさ。
結局、スーフアミ買ってもらえなかったことが全部の原因なんだ
よ。ダイちゃんは普通の家に暮らしてゲームしてたらもつと普通
の人になれてたよ。ダイちゃんがゲームするのってさ、俺がお前を
頼るのと同じなんだろうな。

ユウスケ え？

悠介 バランスとってるんだよ。そうしないとおかしくなるのかもな。

ユウスケ そこまでじゃないべ。

悠介 ほら！今もそうやって地味い〜にバランス取ってる。

ユウスケ　ダイちゃんのゲームと俺は同じものか？
悠介　……似てるけど、ちょっと違うか。

間。

悠介　あ、俺、お前とやりたいたいこと思いついた。

ユウスケ　何？

悠介　お笑い芸人やるべ！

ユウスケ　なにそれ？

悠介　お笑いいいじゃん。お前みたいなやつがいるとネタ作りやすいんだ

よ。こんなギスギス、ゴタゴタの家で、やれお金ない、やれ勉強しろ、やれ兄弟が、家族が。でももうわかってきたんだよ！家庭環境複雑骨折したら、前と全く同じには戻らないんだって！

だったらお笑いにしちゃおうよってことだよ！お笑いはシンプルでいいぞお、「面白い」にしゃゃえばいいんだから！俺とお前を生かすにはお笑いがいいぞ！

ユウスケ　どうしたお前？

悠介　なんだよ！お前が言ってきたんだろ！黙ったり、受け流したり、嘘ついたり、樂すること、馴染ませろよって。

ユウスケ　……そうだな。

悠介　……お母さん、俺、お笑い芸人なるわ！

悠介、捌けていく。ユウスケも続いて捌けていく。

シーン8　2006

光朗、夢子、ここ数年で定着しつつある誰もいないリビングにやってくる。ひと間すると怒号をあげた雪子と茂雄が入ってくる。

雪子　説明すれや！

茂雄　だからもう俺に構わなくていいつつってるべや！

光朗　ちよつとやめてや、夢子こわがってるしよ。

雪子　生命泉（せいめいせん）、売れなくて、借金膨らまして、なして浮気までされんきゃならんのさ！

雪子、茂雄を部屋の隅に追い詰める。

雪子 相手、誰よ！

茂雄 ……誰もない。

雪子 あんた、子どもかい。なして女と連絡とってんのさ。話しなや！

茂雄 ……。

雪子 どこの女よ。

茂雄 ……。

雪子 どこの女か言え！

茂雄 ……バー。

雪子 どこのバーさ。

茂雄 すすきののバー。

雪子 憎たらしいね、バーで知り合った女と？気持ち悪い！どんなバー！

茂雄 ？ どんなバー？

雪子 話しなや！

茂雄 暗いバー。

雪子 どんくらい？

茂雄 ？？？

雪子 どんくらい暗いバーさ。

茂雄 どんくらい暗いバーかを言うの？

雪子 あんたの浮気をちゃんと想像してこのあとブチギレたいから。

茂雄 ……。

雪子 どんくらい暗いバー？

茂雄 顔近づけないと相手のことわかんないくらいの暗さ。

雪子 どんくらい近づけたの？！

茂雄 いや……

雪子 どんくらい？！

茂雄 こんくらい（鼻と鼻がくつつくくらいの至近距離を表現）

雪子 おま、バカでないの！？

茂雄 ……。

雪子 そのバーで、その距離で、バカなことしてたんだべ！？

茂雄 ……。

雪子 あんたさ、あんだけ借金作ったあとに、よくそんな暗いバーで別な女

茂雄 とその距離で酒飲んでられるね！

……。

雪子 何飲んだの！？

茂雄 まだ聞くの？

雪子 何飲んだか言えや！

茂雄 ……。

雪子 言えって！何飲んだのよ！おしゃれなもの飲んでたら殺すからな。
正直に、そこで何飲んだのよ！

すごい長い間があつて。

茂雄 ………………キスインザダーク。

雪子 浮気のときにそんなどんぴしゃなもん飲むなあ！

悠介、袋に入った空のペットボトルを持って、
慌てて入ってくる。

悠介 ちよ、やばいつて生命泉のペットボトルわや届いてるんだけど！
あとこれ！

茂雄、悠介から封筒を奪い取って開け、
意を決して中の書類を見る。請求金額は高額で、

茂雄 へア……

と膝から崩れ落ちる。

雪子 出てけ。

茂雄 ……。

雪子 いますぐいなくなれや！！！！
茂雄 ……。

茂雄、ヨタヨタと出て行く時に光朗と目が合う。

光朗 あ……。

雪子 ミッツ。どうする？

光朗 ……。

茂雄 ど、どうする？

光朗 ……
雪子 ミッツが決めなや。
光朗 ……
茂雄 来たくなったら来い。

茂雄、光朗を置いて捌けていく。光朗、啞然として椅子に崩れるように座る。

悠介 ……
雪子 いや〜、お母さん、もう親が別れるところ見せたくなかったよ。私の男運だら、すごいね。あれだべさ……あの〜、あれ……どころい運悪いべかね。出てこないわ、お!?

悠介がまごまごしていると、ユウスケがきて努めて明るく振る舞う。

ユウスケ ……これもいつかネタになるでしょ。
雪子 借金、お母さんも連帯保証人だから……返していくことになるわ。
ユウスケ 俺も働く?

雪子 悠介が背負(しょ)うことでない!二人とも、なん〜も我慢しないでいいからね。ユウちゃん、お笑いやりたいんでしょ?お母さん、もう誰の力も借りないから。心配すんでないよ!心配される方が嫌だからね。ミッツにも好きなことさせちゃっからね!
光朗 ごめんなさい、俺のお父さんが。
雪子 なしてミッツが謝ることあるのさ!
光朗 だって……俺生まれてなきやこんな風にお母さんのこと苦しめてないべ。ダイちゃんとユウちゃんも嫌な思いしなかったべ。
雪子 ……

光朗 俺の本当のお母さんも生きてたかもしれないし……
雪子 俺がいいことないべ。
ミッツやめなさい!(と言って抱きしめにいく)そんなこと言うんでない。

光朗、雪子を振り払って、

光朗 誰も得してない。

雪子
ミッツ。

ユウスケ ……いやいや、ミッツにとってはいい日でもあったと思うよ。

光朗 ……なして？

ユウスケ だって、ミッツ、間に挟まれて、肩身狭かったってことだべ！お母さん好きなことしていいって言うてくれたんだよ！だったらこれから好きなことすれ〜！

雪子 (ユウスケに同調してうんうんと頷いて) ……そうだ。

好きなことしていいよ。

光朗 ……急に言われてもわかんないよ。

ユウスケ ああ、だったら大学行けばいいんでない？

光朗 大学？

ユウスケ ダイちゃんや俺みたいに、とりあえず大学行って、やりたいこと

見つければいいんだ。

雪子 そうだ、お母さん、ミッツば大学行かしちゃっから。

……。

光朗 それともお父さんところ行くかい？

……。

雪子 ミッツ。家族だよ。

光朗 ……家族？

そうだよ。

光朗 (頷いて) ……夢子のご飯用意してくる。おいで。

光朗、捌けていく。雪子と夢子もそれを追っていく。

シーン9

悠介とユウスケの脳内会話になる。

悠介 これでいいんだよな？

ユウスケ ミッツにとつては最善だべ。

悠介 ……お母さん、あれからずっと頑張ってくれてるよな。

ユウスケ 何年も土日も休みなく働いてるな……。

悠介 ……いいのかな？

ユウスケ お母さんがいいつつってんだし、いいべ。お笑いで結果出して、売

れて親孝行するんだべ？

悠介 うん。

ユウスケ お前の望むようになってきてんでない？

悠介 え？

ユウスケ やつとシンプルになった。

悠介 どういうこと？

ユウスケ ダイちゃん、秋田で一人で生きていくようになって、シゲちゃんが
いなくなつて、ミッツは好きなように生きていって言われて。

お前はお笑いやってこれを全部面白に変えるんだろ？

悠介 うまいこといつてるよな？

ユウスケ どうだろうなあ、M-1一回戦で落ちてるからうまいこといつてる
かと言われたらわかんないけど。

悠介 そこじゃなくて。俺とお前はうまいことやれてるよな？

ユウスケ ……ずっと折り合いつけてやってるべ。

悠介 いや俺時々わかんなくなる時あんだわ。

ユウスケ 何が？

悠介 たまに、思ってることと言ってること、逆にした方がいいんじゃないかとか。一瞬、ホント一瞬なんだけど、頭の中おかしくなりそうで。

ユウスケ そんなの誰でもあることだべ。

悠介 ならいいんだけど……。お前と会話する量が増えるのが、怖くて。お前と意見があつてるのか今どっちが俺なのかわけわかんなくなる時もある。

ユウスケ そういう時期なんだべ。モヤモヤするもんだ。でもお前言ったぞ、そういうのがお笑いに役立つって。

悠介 ……それは言った。

ユウスケ いいんだよ、お前のターンがきたんだよ。

悠介 俺のターン？

ユウスケ 家族といえど、他人ちゃ他人なんだから。

暗転。 大津波の音が聞こえる。

シーン10 2011

明転。そこは宮城県庁内。光朗が舞台前下手端に椅子を置いて座っている。舞台奥上手端には電話をかけている雪子と悠介がいる。

雪子 ミッツ、(電話に) 出ないね。とりあえずその〱災害掲示板？

悠介 だかに名前とメッセージ、打てるの？

雪子 うん。

(切り直しては電話をかけて) かかって。

電話がかかった様子で、

雪子 ミッツ！？ミッツかい！？あれ？林光朗の携帯電話ですか？

光朗 もしもし？

雪子 ミッツかい？

光朗 うん。

雪子 (安堵して) 怪我不いかい？

光朗 大丈夫。

雪子 今、どこいるの？

光朗 えっと、宮城県庁。

雪子 宮城県庁？なして？

光朗 受験生で被災した人は全員、県庁に移動になったから。

雪子 そうかい。いや無事で良かった。ご飯は？食べれてんの？

光朗 県庁の職員さんがパン配ってたからそれはもらったよ。

雪子 水は？

光朗 なに？

雪子 水飲めてるの？

光朗 丸一日前に500のペットボトルの水もらってから、飲んでない。

雪子 ……。携帯の充電は？

光朗 ああ、まだ大丈夫かな。

雪子 あのね、ミッツ。

光朗 うん。

雪子 ダイちゃんとは昨日すぐ連絡ついてね、秋田から車で仙台に向かってもらったんだ。だから仙台から一旦秋田に避難してダイちゃん家泊まりな。ダイちゃんちの近くはまだ被害少ないから。落ち着いてから帰っといで。

光朗、遠くの方に大介を発見した様子で、

光朗 あ、ダイちゃん。

雪子 え？

光朗の元に大介くる。ケータイを切り忘れる。

大介 ミッツ！

雪子 ダイちゃん！ダイちゃん！！

大介 (携帯画面を見てから) あ、もしもし、ミッツと会えたから。このまま車で秋田に帰るわ。

雪子 よろしくね。

大介 ミッツ、大丈夫？

光朗 大丈夫。

大介 ……県庁の職員さんどこ？

光朗 あそこ。

県庁の職員が忙しくしている。

大介 あ、すみません。林光朗の保護者で、兄です。

職員 はい、ご苦勞様です。身分証ありますか？

大介 はい。

大介、身分証を見せる。

職員 ……うんと、(光朗に) ごめんね。学生証見せてもらえる？

光朗 ……(学生証を見せる)

職員 保護者さん？

大介 はい。

職員 失礼ですけど、ご関係は？

大介 兄ですけど。

職員 青嶋大介さん？

大介 そうです。あ、うちの弟、血はつながってないですけど。

職員 なんかご家族って証明できるものありますか？

大介 え、いやないですけど……ミッツまだ繋がってる？(ケータイをとって) あ、もしもし？

雪子 はい

大介 今、ミッツがうちの家族だって証明できるものある？

雪子 保険証持たせてない？

大介 ミッツ、保険証ある？
光朗 ホテルのカバンに全部置いてきた。
大介 なして？
光朗 ホテルの人にあとで部屋にあるもの送るから先に出てって。
大介 ……今持ってない。
雪子 なして？
大介 ホテルに置いてきちゃったって。
雪子 したらどしたらいいんだべ。ちょっと代わって。
職員 はい、もしもし。
雪子 あ、林光朗の母の青嶋雪子です。
職員 ああ、はい。
雪子 その子、私の扶養には入ってて。今ちょっとどうやって証明したら
いいかわかんないですけど。
職員 そうですね、今電気が全然復旧してないんで、こちらでも何か確認す
るっていうのが難しくくてですね。ただそれができないとですね、身柄
の受け渡しは難しくて。
雪子 いやでも、地震きてるから、兄と秋田に避難させたくて。
職員 ああ、そうなんですよね、ただ、ご家族という証明がないと。
雪子 いや家族なんですよ！
職員 ……お気持ちはわかるんですけど、簡単に引き渡して、何か重大なこ
とになっちゃうのを避ける意味でもご理解いただきたいんですけど。
雪子 いやこの緊急のときにね……………うちの息子返して欲しいってそれだ
けじゃないですか？
職員 あの泊まったホテルに保険証あるんですよね？それが手元になれば
今から取りに行けるんですか？
雪子 ミッツ泊まったホテルってどこ？
大介 いや行けないと思うよ。泊まったの26階だったし。
光朗 受験生は、このまま指示があるまでは待機してもらおうかご家族に引き
渡すかなんですけど。
雪子 だから家族ですって！兄が目の前にいるじゃないですか！
職員 当人との関係がわからないとですね。
大介 （電話の内容を察して）兄ですって！
職員 ……ちよっと上のものと話してみていいですか？私も秋田から直接来
たという方の対応初めてで。
雪子 いや、何を上の人と話すのことが……………家族がね、一生懸命秋田から迎
えに言って、目の前にいておかしいじゃないですか。

職員 お気持ちはわかるんですが。

光朗、ケータイを職員から奪い取って切る。

光朗 もういいです。待ちます。
職員 ご、ごめんね。

職員、一礼して去っていく。

大介 (職員が去ってから) なして？
光朗 俺は、青嶋家の家族じゃないでしょ。

照明変化。ユウスケがきて、悠介との脳内会話になる。

悠介 どうする？こんなことが起こってもいつかネタにするって思った
ほうがいいのか？

ユウスケ お前が決めたんだろ？オモシロにするって。

悠介 これは笑いになるわけないべ。

ユウスケ じゃあお前はどうすんだよ。

悠介 俺はお笑いにはしないけど……………この話を…………

この話すらもいつか…………。

ユウスケ、去って照明が青嶋家のリビングになる。

雪子、悠介、大介、光朗、夢子がいる。

雪子 おかえり。

大介 職員さんと上の人で話してくれたら、一応事情はわかってくれて、
帰ってこれたわ…………。

雪子 ダイちゃん、ありがとう。

大介 俺、すぐ秋田戻るわ…………

雪子 なしてゆっくりしてっいたらいいべき。

大介 秋田の家もひどいことなってるし、最近できた彼女、
置いてきてるから。

雪子 ……ありがとう。

光朗、雛壇(2階)へ向かおうとする。

雪子 ミッツ。

光朗 なに？

雪子 受験の結果出てて……

光朗 見たよ……。

雪子 4月から予備校行かせちゃつから。また来年、がんばればいべき

……。代ゼミ行きな！代ゼミ！ミンミンゼミでなくて。お！？

光朗 ……。

雪子 お母さん、ミッツのこと絶対大学行かせちゃつからね！

光朗 ……。

大介 ミッツそういうときもある。俺も大学2浪もしちゃったけどさ

光朗 ダイちゃんやユウちゃんと、俺はやつぱり違うよ……。

雪子 何にも違わないよ。ミッツの好きなようにさせちゃつから。

光朗 もうずっとずっとずっと。ずっとそうやって気遣ってくれてる

しよ。気持ちはありがたいんだけどさ……それが辛い。

だって本当の家族じゃないんだもん。

大介・悠介 ……。

光朗 凶星でしょ？本当の弟じゃないから。

雪子 無事に帰ってきて良かったよ。……ミッツ。

光朗 ……もう疲れた。

雛壇へいき、座る光朗。啜り泣く。やがて暗転。

シーン11 2016

明転すると雛壇にニュースキャスターがいる。

ニュース 続いてのニュースです。近年、若い女性や中高年層にも人気の

「アートメイク」と呼ばれる、瞼や眉の皮膚に特定の器具で

色を付ける行為を、医師免許を持たずに行ったとして、警察は札幌

市内でエステサロン「オーシャンステイ」を経営する女性、

青嶋雪子容疑者を逮捕しました。岩見沢警察署より浅倉記者と

中継が繋がっています。浅倉さん。

リポーターの浅倉さんが別エリアにいる。

国際中継みたいな変な間の中継が始まる。

浅倉 ……………はい、現場の浅倉です。私は今、札幌市のお隣、岩見沢警察署にいます。青嶋容疑者は現在、こちらで取り調べを受けているようです。

ニュース はい、札幌市内の事件ですが、なぜ岩見沢署での取り調べなのでしょうか？

浅倉 ……………。

ニュース 浅倉さん？

浅倉 はい、岩見沢警察は近年多発するエステサロンによる医師免許を必要とす、はい？

ニュース はい？あ、続けてください……

浅倉 ……………。

ニュース 中継がうまく繋がってないようですね。

浅倉 はい、続けます、岩見沢警察は近年多発す……はい？繋がって……ないですかね？

ニュース 为什么呢？国際中継みたいな間になっちゃうんですが。

浅倉 岩見沢警察は近年多発する、国際中継？……ではなく、札幌市とこちら岩見沢警察署を結んでの中継ではあるんですが。

ニュース そうですね、だからこの不自然な間が気になるんですが、これは一体なんなんですか？

浅倉 ……………。……ちょっとわかりません。

ニュース では、続けてください。

浅倉 ……………。続けてもよろしいでしょうか？

ニュース はい、どうぞ。

浅倉 ……………。岩見沢警察は近年多発するエステサロンによる医師免許を必要とするにも関わらず無断で行われる施術を問題視しており、捜査チームを結成。この度、札幌市内各地で一斉摘発に至りました。中でも青嶋容疑者の経営するエステサロンは、熱い人気を誇る老舗で、アートメイクを開始した1年前からはさらに評判を呼んでいたとのこと。消費者への被害などは出ているのでしょうか？

ニュース ……………。

浅倉 浅倉さん？

ニュース ……………。

浅倉 ……………。はい、被害は今の所……はい、浅倉ですが？

大丈夫でしょうか？続けます。え、被害報告は今のところ出て

おりません。調べに対し、青嶋容疑者は、「息子たちの生活のため
にやった」と話しており、警察としても法外な金額を取っていた
わけではないことから、詐欺などの可能性は低いとされています。
以上、岩見沢警察署からでした。

浅倉の最後のセリフと同時に場面転換。ニュースキャスターは
捌ける。悠介がきて、椅子に座り、待機している悠介。
浅倉が捌けると奥から来る雪子。黒いスウェットを着ている。
ゆっくりと座ってから、

雪子 ……なんか久々だね。

悠介 下着とか他の服、あとお金もちょっと差し入れたから。

雪子 そう。

悠介 弁護士さんに連絡しといた。おそらく罰金で済むだろうって。

雪子 ああ、そう。

悠介 そういうふうには持っていくって。

雪子 ここ出たらサロンで一から出直しだわ。

悠介 ……。

雪子 なしたの？

悠介 全道ニュースになった。サロンの電話鳴り止まないから、今、回線切

ってる。

雪子 ……。

悠介 もう一回サロンやるのは難しいかも。

雪子 ……そっかい。

悠介 ……。

雪子 でもエステ以外でできることなんて60手前でもないよ。

悠介 ……。

雪子 なんか考える。あ、考える時間だけは山ほどあるんだわ！お！？

悠介 ……。

雪子 いや、ここいるとすっかり健康的だよ！

悠介 ご飯ちゃんと食べれるしさ。逆に調子良いんだ、お！？

雪子 ……。

悠介 こんな母親、火曜サスペンスドラマみたいでいいしょ！ネタとか脚本
にすれば面白いんでないの！？お！？

悠介 笑えないって。

雪子 ……笑つときな。

悠介 ……。
雪子 笑っちゃいけないけども、笑つときな。じゃないとやってけないよ。
悠介 ……（必死に笑おうとする）
雪子 ……ダイちゃんには、心配すんでないって言つといて。
悠介 うん。
雪子 ユウちゃんがいてよかったわ。今日寒かったべき。2月の岩見沢で…
悠介 ……あれ、今日2月16日だべき？
雪子 あ。
悠介 ……ユウちゃん、誕生日でしょや……………ごめんね。

雪子、我が子の誕生日をこんな形で迎えるとは
思っておらず、泣いてしまう。

悠介 いいって。俺27歳だよ。もう祝ってもらおう歳でないし。こんなところ
で、おめでとう〜！とか言われても切ないべや！お！？
雪子 ……。
悠介 俺もごめんね。
雪子 なしてユウちゃんが謝るのさ。
悠介 ……ずっとお母さんに無理させた。
雪子 やめれ。
悠介 何の文句も言わず、必死で働いてくれた。
雪子 好きで選んでやったことなんだからいいんだ。
悠介 ……もういいよ、一人で頑張らないで。
雪子 ……私、守れなかったね。
悠介 いいって、だからそういうの。
雪子 ユウちゃんのこと、ミッツのことも、なんとかしてやりたかったんだ。
悠介 あたしのせいですと辛い思いばかりさせてきたから…………。
悠介 ……。
雪子 ユウちゃん、したいことしな。東京行って、今度、脚本家
なるんでしょ？お母さん応援してるから。
悠介 ……（頷く）。
雪子 ミッツのことは私が責任持って面倒見る。
悠介 ……なしてそこまで。
雪子 ……母親だからだ。ミッツが今一番不安だと思うわ。

タイマーの音がピピピとなる。

雪子 ……したらね。
悠介 うん。

雪子、捌けていく。

シーン12 2017

喫茶店。憲介がくる。

憲介 久々だな。お笑い、まだやってんのか？
悠介 うん。なに？
憲介 売れてんのか？
悠介 いやあんまり。
憲介 お笑いつて勉強できないとダメだからな。
悠介 ……そうだね。
憲介 まあ札幌だけでやってても仕事ないべなあ。
悠介 うん、え、何？久々に呼び出しといて。
憲介 いや、仕事ねえべって。
悠介 ないよ……。
憲介 ほれ、下の子、なんたっけ？
悠介 何の話？
悠介 いいから、下の子の名前。
光朗 光朗。
憲介 光朗くん、大学落ちてから引きこもって働いてないんだべ？
悠介 ……そうだけど。関係ないしょ。
憲介 将来どうすんのよ。
悠介 知らないよ。
憲介 ずっと引きこもってるわけにいかねえべ。
悠介 そうじゃない。
憲介 お母さんだって、あんな大変なことになったのに
育てていくつつつてんだべ？
悠介 うん。
憲介 だからよお、勉強できないとそういうことになるんだな。
悠介 ？

憲介 勉強できないんじゃない、救いようないっつーかな。

……。

憲介

大介は秋田大学出て、まあ今も普通に働いてるし、どうにかなるべ。悠介だって俺が勉強教えたから、大学は入れて、教員免許取ったんだからお笑いダメでも潰しきくべ。

悠介

……まだダメじゃないし。

憲介

もしもの話だ。……悠介、ダメだったらどうすんのよ。

悠介

……。

憲介

現実的な話でな、勝算ないと続けても意味ないべっちゅー話だな。一人で生きていかないとだべ。

悠介

難しいかもだけど、今は脚本家になりたくて。

憲介

脚本？

悠介

……。

憲介

それなんか会社入ってか？

悠介

いやフリー、かな。

憲介

それならお前、お笑いやってんのと変わんねえべ。

悠介

……。

憲介

俺の血引いて勉強できんだから。

悠介

……。

憲介

俺んところの塾で働くか？

悠介

？

憲介

アルバイトから初めて、社員なれば暮らしていけるから。

悠介、沸々と怒りとも悲しみと言えない感情が込み上げる。

ユウスケが出てくる。

……。

悠介

それまではある程度、面倒見ちやるから。お金もやるし、なんか俺もな、そろそろ父親らしいことしてやりたいしな。大介にお金使い過ぎ

て、悠介になんもしてやれんかったし。大泉洋とか倉本聰みたいになるのは難しいべ。あ、大泉さんも

頭いいもんな。藻岩高校出ててな。

……働けばお母さんも安心だべ。タバコ吸ってくる。

憲介、出ていく。残っている悠介とユウスケ。悠介、独白。

悠介 勉強とかさ、お金のこととかさ、大事なのは知ってるよ。……なんでお母さんと離婚したんだよ！あんたが出て行かなきゃ全部考えないでよかったことなんだよ！あんたがちゃんと父親してたらさ、こんなふうに人生歩んでないんだよ。勉強勉強とかそんなん……そんなんよりも、ふつつうの！なんまらわや普通の！もう手握って帰るとかそんなんでよかつたんだよ、わかる！？こっちにお母さんがいて、こっちにあんたがいて、大介と俺が間にいて、夕日に向かって歩いて帰る！あんたと会う度によぎっちゃうんだよ……俺を混乱させるな！！

悠介、突っ伏してしまふ。ユウスケが座っていた場所に
ユウスケが座る。憲介、戻ってきて、

憲介 何飲む？俺は昼間だけど、ビール飲んじゃうかな。

ユウスケ ありがと。俺はもうちょいだけ頑張ってみるわ。東京行きたくて。

憲介 東京？

ユウスケ そう、それがダメだったらお父さんとここで働くから。もしそうなら助けてよ。そんなときははいよいよ父親と息子じゃなくて、社長と社員になるんだね。

憲介 まあそうだな。

ユウスケ じゃあね……。

憲介 は？

ユウスケ、その場を後にする。

憲介 おい！……おい！

憲介も後を追いかけていく。

シーン13 2020

珠子がくる。結婚式前夜の続き。青嶋家のリビング。

悠介 すごくない？東京行くなって決めた俺もそうだけど、ミッツ以外
まともじゃない。

珠子 悠介くん。

悠介 明日の結婚式が、たぶん最後のチャンスなんだよ。
珠子 そうかもね……。
悠介 珠子さん、俺……

珠子に甘えようとしたところで、
智恵がインターフォンを鳴らさずやってくる。

智恵 やっほい！

珠子・悠介 わお！

珠子 お姉さん？

智恵 へへへ

悠介 タイミング……

珠子 ……どうしたんですか？

智恵 ごめんねさつき。

珠子 いえ。……留袖レンタルできるので。

智恵 うん。私、ダイちゃんのために、いい結婚式にしてあげたくて。

珠子 ……

智恵 ダイちゃんがね、昔はもうちょっと喋れたって。

珠子 うんうん。

智恵 でも実のお父さんと会って、勉強するようになって……。

悠介 ユウちゃんの状態変わったって。

悠介 ……まあ。

智恵 ダイちゃん、2浪もしてお金かかりすぎたから、ユウちゃんとミッツ

に不公平な思いかさせたかもって。

珠子 …………やっぱり兄弟っていいですね。

智恵 ？

珠子 言わないけど考えてますよね、いまだに、ダイちゃんとかユウちゃん

とかミッツとか呼び合って……それだけでもすごいって

思うんです。お姉さんも一人っ子だとそういうの憧れませんか？

悠介 ？ 智恵は4人姉妹の末っ子だべ。

問。

智恵 …………ごめん、私、一人っ子じゃないの。

珠子 え？

智恵 だけど私、勘当されちゃって。オヴオエラツツ！（嗚咽の音）

この辺りから、智恵、特有の嗚咽を含む泣きが入りながら、

珠子 大丈夫ですか？

智恵 オヴェラッツ！……平気。私ね、昔から姉妹で喧嘩多くて、

一回耐えられなくなっちゃってヴェラッツ！

ホント口聞きたくないって思っ、徹底してしゃべらなかつたの

ヴェラッツ！そのうち家族全員と喋り方がわからなくなっちゃって

ヴェラッツ！もう元に戻れなくなっちゃって。

もう娘でもなんでもないってー！

珠子 ……。大介さんとお母さんはこのこと知ってるんですか？

智恵 ううんヴェラッツ！だから喧嘩して実家帰るって出てくんだけど、

帰るところもうなヴェラッツ！（抱きついてワンワン泣きながら）

ごめんね〜！ゴタゴタしてる家にこんなゴタゴタしたやつきて〜！

悠介・珠子 ……。

智恵 もうこの家族しかないから。だって、48で子ども作るの難しいし。

珠子 ……（何とも言えず、何度も強く抱きしめる）

智恵 だからダイちゃんとうちゃん仲良くなってほしいしヴェラッツ

ミツも仲良くなってほしいしヴェラッツ、お母さんとも仲良くし

てたいしヴェラッツ！

大丈夫ですよ！……私たちも姉妹じゃないですか！

……。

珠子 私、嬉しかったですよ。お姉さんができて。

智恵 うん。

珠子 明日、みんなにとっていい式にしましょ？悠介くんが頑張ってくれま

すから。

智恵 うん。

珠子 お姉さんにしかできないことがここには沢山ありますよ。

智恵 うん。

智恵 行くね。ユウちゃん、明日、楽しみにしてるから。

悠介 ……うん。

珠子 ありがとうございます。

智恵 あ、送ってあげるね。下で待ってる。

智恵、捌けていく。

悠介 変な家族でしょ？

珠子 ううん。家族の分だけ色々あるんだから、どれも普通じゃない？

悠介 ……ありがと。

珠子 明日よろしくお願いします……。

悠介 よろしく。

珠子 私たちも、明日で家族になるんだね。

悠介 本当にうちの家族でいいの？……

珠子 あのさ、私は私で、自分の家族と離れるの寂しんだからなあ。

悠介 そうだよね。

珠子 光朗さんからいい挨拶もらいたいんでしょ。

悠介 ごめんね、なんか。

珠子 ううん、結婚式は前向き。ほんとに友達も誘いたかったけどね。

悠介 でもその分、家族で過ごそつ。

悠介 はい。外まで送ってく。

光朗、キッチン方向から顔を覗かせる。

珠子 私は光朗さんに感謝してるよ。

悠介 ……どうしたの？

珠子 光朗さんは普通の人よりも大変な人生だろうなって思う。

光朗、すぐに下手奥に引込む。

珠子 でもそんな光朗さんがいないと、今の悠介くんに出会ってないし、私

悠介 たぶん振り向いてない。

悠介 なんでそんな優しいの？

珠子 優しくしてるつもりじゃないよ。この人生を歩んできた悠介くんじゃない

悠介 とってだけ。……私おかしい？

悠介 ううん。

珠子 外の人間だから、複雑な気持ちとかわかんないけど。受け入れていき

悠介 たい。悠介くんのこと。光朗さんのことも、お母さんのことも。

悠介 こんなわけわかんない家庭でさ、

珠子 その先に私がいるでしょ。私と会ったことまで否定しないで。

悠介 そうだね。

珠子 じゃ私、帰るね。

悠介 送ってく。

悠介、珠子は捌けていく。

シーン14

光朗が下手奥からリビンググに出てくる。
そこから雛壇へ向かいながら、夢子を呼ぶ。

光朗 ゆくゆくめくく

光朗が雛壇に座ると、夢子がやってくる。

光朗 ……ゆめ、俺はさ、青嶋家の人じゃないんだよ。ここにいていいの
かもわかんない。

タエコ ……明日の結婚式、挨拶しないの？

光朗 せつかくなら私も行きたかったなあ。息子のスーツ姿ってグツと
くるのよ。明日は蝶ネクタイにしたら？似合うと思うよ。

タエコ ユウちゃんが芸人やってた頃の衣装であるでしょ？あれ借りたら？
誰？

光朗 ……妙子（たえこ）。

タエコ ……お母さん？

夢子は突然、タエコとして話し出す。照明はいつの間にか、
幻想的な雰囲気となっている。

タエコ 明日、行かないつもり？

光朗 だって…俺が挨拶したって恥晒しだべ…。

タエコ いつまでそうやって引きこもってるの？

光朗 ……わかんない。

タエコ ……。

光朗 俺がいていいことないべ。

タエコ ……そんなわけないでしょ。

光朗 ……なんで俺ばかりって、思っちゃう。

タエコ ……私の自慢はね、ミッツが優しい子になったこと。いろんなこと思

ってきたもんね。

光朗

……。

タエコ 私が猫になる前に、ミッツが誰かに守ってもらえますようにって
お願いしてよかった。

光朗

お母さんが？

タエコ

うん、そしたらちゃんと生きてくれたんだもん。

光朗

……。

タエコ

辛いことが多かったね。でもまだわかんないよ？

光朗

わかんない？

タエコ、光朗を優しく抱きしめて、

タエコ

こんなふうにするのは最初で最後だよ。

光朗

(優しく抱きしめ返す)

タエコ

……最後にしよ(体を離す)

光朗

？

タエコ

もうすぐ30歳でしょ？いいねえ。私は30歳になれなかったから
なあ。

光朗

……。

タエコ

そろそろミッツと会うこともできなくなる。私もこの部屋出て行かな
きゃ。

光朗

……どういうこと？

タエコ

ミッツをここに留まらせちゃったかも。

光朗

お母さん？

タエコ

私はもう一緒に歩かない、もう、猫にはならない。

光朗

お母さん！

タエコ

みんなと一緒に歩いといで……お願い。

タエコとなっていた夢子は捌けていく。12歳の夢子、没。

光朗

……。

シーン15 2020 悠介の結婚式

光朗が一人残っていると、悠介がやってきて、

突如として結婚式の結びの挨拶を促す。

照明は結婚式のスピーチのように光朗にスポットが入る。

悠介　それではここで、僕の大事な家族を紹介します。僕の大切な弟、林光朗です。

悠介、一人で大きな拍手。光朗、挨拶を始めようとする。

光朗　ユウちゃん、珠子さん、ご結婚おめでとうございます。
ええ〜つと……ユウちゃんとは色んな思い出があつて……

光朗、違和感を感じて言葉が出てこなくなる。

そこへユウスケがこのお芝居の初稿台本を持って出てきて、

ユウスケ　なんでもいいから。

光朗　……。

ユウスケ　ミッツ。

光朗　……。

ユウスケ　ミッツ。

光朗　……。

ユウスケ　なんでもいいって。

光朗　……。

ユウスケ　ミッツ。

光朗　……。

ユウスケ　……。

光朗　こんなじゃない。

結婚式のスピーチの照明から一瞬で広がり、リビングになる。

シーン16　2022　真実

光朗　何、このお芝居？

ユウスケ　ん？

光朗　俺はこんなじゃない。（と言いながら初稿台本を取り上げる）

ユウスケ　……。

光朗 確かに結婚式の日、真ん中の席には座らされた。だけど結びの挨拶は……頼まれてない。

ユウスケ で、でもこう書いた方がほら、俺とミッツが本当の兄弟として。さっきの夢子とのシーンだってそう。夢子は俺の実のお母さんの生まれ変わりじゃない。

ユウスケ そうなんだけど、こういう流れの方が感動的で

光朗 感動的な話を書きたかったってこと？

ユウスケ ……………いや。

光朗 そうなんでしょ。

ユウスケ 違う。俺はミッツと向き合おうって思って。

光朗 ユウちゃん……どうしてこの話書こうと思ったの？

ユウスケはたじろぐ。その場にいる悠介は黙って立っている。

ユウスケ ……ミッツを、本当の弟にしたいって思ったから。

光朗 違うよ。

ユウスケ いや、違わないよ。ミッツは俺の本当の弟だ！

光朗 一生守ってくからな。

光朗 違うよ。俺の知ってるユウちゃんは。

ユウスケ (気にせず)ミッツのこと想ってのことだよ！…………いや本当、お母さんも歳だから。あんな事件起こして家族バラバラになっちゃうのは怖いじゃん！

光朗 もうわかったから。

ユウスケ 何が！俺は今、ミッツに本音で、

光朗 思ってもないこと言わなくていいよ！！

とユウスケに言うと、今度は悠介を見る光朗。

光朗は悠介の中に普段とは違うユウスケがいることに気づいている。

光朗 ここからでいいから。本当に思ってることだけ話してよ…………。

ユウスケ ……(悠介の方を見る)

悠介 (ユウスケに)ミッツと話すよ。お前といるの、いい加減やめないと。これは自分の中で折り合っちゃいけないことだ。

ユウスケ ……。

悠介 ……でもお前がいてよかった。お前がいなかったらと思うと、

ユウスケ　　また呼ぶんだろ。
ゾツとする。

ユウスケ、去っていく。悠介、光朗と向き合うと心に決めて、

悠介　　……ごめんね、時間作ってもらって……。

光朗　　このお話いつやるの？

悠介　　来年の夏、下北沢で。

光朗　　どうしてこんなストーリーなの？

悠介　　怒ってる？

光朗　　ううん。ちゃんと話してほしいだけ。

悠介　　これから子どもが生まれる。

光朗　　……うん。おめでとう。

悠介　　俺、一応、親父になっていくわけだよ。自慢のお父さんになりたい
て思ったんだよ。

光朗　　それで？

悠介　　俺もミッツも父親ってものいい思い出がないじゃん。

光朗　　生まれてくる子どものためってこと？

悠介　　……（本当は子どものためですらない）

決心したはずなのに、まだ言葉にズルさが残っている。

悠介は光朗に見透かされているような気になる。

悠介　　生まれてくる息子に、「お父さんはどんな家で育ったの？」って

聞かれたら、俺、嫌だなって思った。

光朗　　……うん。

悠介　　息子の前では、自慢の家族でいたいなって。ミッツを紹介する時、
ギクシヤクしてるのは恥ずかしいし、その時の自分の顔、息子に見ら
れたくないなって。……でも今までまともに話したことない兄弟にな
んて伝えたらいいのかわかんなくて。そんなときに思いついたんだ。だ
ったらお芝居にしちゃえばいいんだって！俺、脚本家になりたいんだ
から！こんなどうしようもない家族と、こんな孤独な弟、書いて、
人前を出して、面白にしちゃって、弟想ってます！これからは兄弟で
すって言っちゃえば全部うまくいくって思ったんだ。

だってミッツみたいな人生歩いてる人、そういないから！こんなに
可哀想なやつどこにもいないんだよ！すごくないか！生まれてすぐ

実のお母さん亡くなつて、シゲちゃん最低な野郎で、うちでずっと
肩身狭い思いして。俺の比じゃないくらい我慢してきたじゃん！
俺をネタだと思つた最低の人間だね、ユウちゃんは。
……書いて笑つてもらえば、この家族を肯定してもらえらつて
思つた……。

光朗 ユウちゃんずっと自分のためだね……。
悠介 ごめん。

悠介 ……。
息子のためでもあるし、自分のためでもある。でもそれがミッツの
ためにもなるつて思つたから
もういいよ、わかつたから。

光朗 こんなだけど……ミッツ、俺の本当の弟になつてほしい。
悠介 兄貴だつて、家族だつて思つてもらいたい……。

光朗 ユウちゃん……。
悠介 ……。
光朗 俺……この家族しか知らない。

間。悠介、心の中でハツとする。

光朗 二人しか兄弟を知らない。お母さんしかお母さん知らない。

悠介 ……家族だと思つてるよ。

光朗 ……そ、そうなの？

悠介 ……うん。

悠介 いや、もつと俺らのことは家族じゃないと思ひながら、部屋で孤独を
感じてるんだと思つたから。

光朗 そう思つたこともあつたけど、ダイちゃん結婚して、ユウちゃん東京
行つてから、お母さんのこと守れる人いないし。俺しかいないかなつ
て。

悠介 ……シゲちゃんのことはどう思つてるの？

光朗 お父さんは、最低の人だなつて思うかな。

悠介 へ、へえ。

光朗 そういう風に家族を思う人なんか沢山いるでしょ。

悠介 じゃあ実のお母さんに会いたいかは思わないの？

光朗 んん、会いたくないわけじゃないけど……。実際会えないしょ。
悠介 まあ。

光朗 お母さん（雪子）のことも、本当のお母さんだと思つてるよ。

悠介 ……
光朗 もういい？
悠介 あ、うん。

光朗、捌けていくが立ち止まり、

光朗 ユウちゃん、これからどんな親になりたいの？

悠介 ん？

光朗 なんか意識とか変わった？

悠介 ん〜まだよくわかってないかも。

光朗 時間かけて親子になっていくと思うんだよね。俺もそうだったから。

俺は俺なりに苦しかったけど、一度も俺のこと兄弟じゃないとは誰も言わなかったし、出てけとも言われなかったから。

悠介 ……

光朗 あ。

悠介 ん？

光朗 ダイちゃんとは仲良くしてほしいかも。弟として。

悠介 ……

大介、智恵、雪子がやってくる。

智恵 ただいま〜。

雪子 あら！？悠介、ミッツと珍しいね、二人で。

悠介 ああ、うん。（初稿台本を座っているお尻の下に隠す）

智恵 ほら！家族でご飯だよ。何食べると思う〜？一家団欒といえバピザ！

大介 もう頼んであるんでしょ？

智恵 うん、予約したよ！あ、もう届く時間だわ！年に一回は家族で団欒

したいでしょ〜♪

悠介 智恵。

？

悠介 ありがとね、智恵がこうやって頑張ってくれるから……うん。

智恵 へへ〜。だって楽しみたいじゃん！

雪子 ほんとチーちゃんいると助かるわあ。クリスマスも正月も大したことしないのさ。

智恵 ダメダメ！家族で過ごさないと！ね〜、ミッツもそうしたいよね？

光朗 ……

雪子 や〜〜こんな風に家族でご飯食べるのいつ以来？悠介の結婚式以来か。

智恵 それは結婚式だもん、集まるでしょ。家で集まるのは？

雪子 ええ〜、いつぶりだ？

大介 俺の記憶だと10年ないんじゃないかな。

智恵 ええ〜そんなに！？

雪子 10年かわからないけど、記憶にないね。

智恵 あ、珠子さんも呼んでるの！？

悠介 いや、青嶋家で仲良くどうぞって。

雪子 もうすぐ赤ちゃん生まれてくるんだもの、これないべき。

智恵 ええ〜じゃ、来年は悠介くんと珠子さんとベビちゃんも入れて家族会

やろうね！

雪子 やっだ、したら私、来年おばあちゃんかい？お！？

悠介 ま、そうなるね。

雪子 や〜信じられないよ。

智恵 てゆうかピザ来たくない！？

大介 ちよ、電話してみたら？

智恵 うん。

智恵、スマホで電話をかける。

智恵

あ、もしもし〜。あの8時で予約した青嶋です〜。まだピザ届いてなくて。え？……8時の青嶋です。いや〜、ネットで。

Lサイズ2枚とポテトとホットチキンウイング。いや〜……はい。

今から頼むと？……はい。はい。

電話を切って、

智恵 帰りたいなあ〜。

雪子 なしてさ！？

智恵 ピザ、予約できてなかった！帰る！

雪子 ちよっと待ちなや！大丈夫だから！

智恵 だって10年ぶりの団欒でピザないんだもん！一家団欒のピザ

がないなんて！

雪子 大丈夫だって！

智恵 もうまたやった〜。

大介 落ち着いてって。
智恵 どうして落ち着いてって言うの?!
雪子 やめれっもう!したらもっかい頼めばいいしよや!
大介 ネットで頼むわ!
光朗 俺、別に大丈夫だけど。

一同、静止。ミッツを見る。

光朗 ピザなくても。一家団欒なんでしょ?
悠介 ……ああ。まあ、ピザ来るまで話すだけいいんでない?

ミッツと悠介、目を合わせる。

光朗・悠介 ……。
雪子 なに?変なの。

間。

雪子 何!?
智恵 じゃ、じゃあ、兄弟でしゃべったらいいでしょ!はい!

兄弟、顔を見合わせるがすぐ逸らす。言葉は出てこない。

智恵 なんで無言なの?気まずくないの?
雪子 まあでもよく考えたら、うちの家族ってこんななのさ。
無言で平気なのさ。

智恵 そう。
悠介 ダイちゃん。
大介 ん?
悠介 ……あとで話すべ。
大介 ……ああ、俺も話したいことあるわ。

光朗、ふふっと笑う。

雪子 なしてミッツが笑ってるの。
光朗 ううん。

雪子 言えばいいしよや。

光朗 別になんも。

雪子 ……なんか今日、変な兄弟だねあんたたち。

雪子を見る3兄弟。

智恵 あ、ピザ、何時に届くの？

大介 あと2時間。

智恵 え?!それまでこのテンション？

悠介 ……まあ。

照明が優しい灯りに包まれていく。

この家族にとって平穏と呼べる時間が流れる。

終わり。